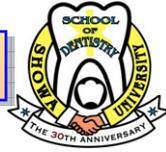




歯学部創設30周年



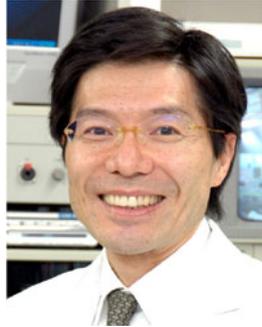
発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

歯学部創設30周年を迎えるにあたり

昭和大学歯学部長 宮崎 隆

歯学部創設30周年の記念事業については、歯学部内に実行委員会(実行委員長: 立川教授, 久光教授)を発足させ、記念誌、記念講演会、式典・祝賀会のそれぞれに小委員会を立ち上げ、全学部ならびに同窓会の協力を得て、鋭意準備にあたってきました。



記念誌は学校法人から本年度の事業計画として予算化されましたので、前回の10周年記念誌に記録されたあとの歯学部の歴史を正確に記録することに務めました。編集作業および校正も順調に仕上がりに、11月4日の式典にて配布する予定です。

記念講演会は昭和歯学会の特別講演会として、11月4日午前9時20分から上條講堂で開催します。元米国歯科医師会会長のセキグチ先生と南カリフォルニア大学歯学部長のスラブキン教授から歯科医療および歯科医学教育の将来展望に関する記念講演を頂戴します。セキグチ先生は日系米国人で始めて米国歯科医師会会長の要職に就かれた先生です。スラブキン先生は世界で最も高名な発生学の研究者であり、また米国を代表する歯学教育の指導者です。両先生から私達の30周年を記念して夢のある講演を頂戴できることを楽しみにしています。

引き続き、各教室および診療科から最新の研究成果をポスター発表します。さらに「口腔の特異性と普遍性」に関するシンポジウムを行い、本歯学部気鋭の山本教授(歯周病)、井上教授(口腔生理)、楨教授(矯正)、中村教授(口腔解剖)がそれぞれの専門領域から講演します。今後の本歯学部の研究の戦略上有意義なシンポジウムになると期待しています。記念講演会は、学生はもとより、同窓生、父兄、さらに近隣歯科医師会の会員をはじめオープンにしていますので、多くの方々の参加をお願いします。

記念式典と祝賀会は会場をホテルオークラに移して、午後5時から開催します。式典には小口理事長、細山田学長ほか昭和大学の関係者、歯学部教員、同窓生を中心に、私立歯科大学協会や歯科医師会、さらに全国歯科大学同窓会の関係者ほか300名以上の出席者を予定しています。創設以来、歯学部を育てていただいた私達の恩師・先輩の先生方も多数

出席の予定です。歯学部の歴史を振り返り、明日の発展について語り合う楽しい会になることを期待しています。

歯学部の総力をあげて準備してきた記念行事が成功裡に開催されることを祈念します。

全日本歯科学生総合体育大会総合結果

学生部長 立川 哲彦

第38回全日本歯科学生総合体育大会(歯学体)の夏季大会が平成18年7月28日から8月12日に開催されました。本年度の事務主管校は日本大学松戸歯学部が担当し、大会競技会場は主に千葉県で行われました。本歯学部は22種目のうち13種目に参加し、内5種目でポイントを獲得しました。硬式庭球部は29校中8位(5.5ポイント)、サッカー部は29校中9位(4ポイント)、卓球部は17校中4位(7ポイント)、バレーボール部は24校中6位(7ポイント)、水泳部は20校中7位(5ポイント)で、得点合計は28.5ポイントでした。冬季大会ではスキー部が20校中4位(9ポイント)であったため総合獲得点数が37.5ポイントでした。総合成績は29校中19位で、昨年度の18位とほぼ同水準の結果となりました。特に、夏の大会では卓球の女子が優勝、バレーボール部の男子が4位と大健闘したことは来年度に向け、大きな励みとなったことです。来年度の大会は松本歯科大学が事務主管校として、松本市で行われる予定です。

本歯学体で平成18年度の主な大会は終了し、この1年間の競技結果を基に、昭和大学では全学部のクラブを対象に武重優秀クラブ賞ならびに優秀クラブ賞の表彰が行われる予定です。

行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 11月4日(土): 昭和大学歯学部創立30周年
記念講演・記念式典・祝賀会
- 11月8日(水): 武重優秀クラブ賞表彰式
- 11月12日(日): 歯学部推薦・編入学試験
- 11月15日(水): 昭和大学創立記念日
- 11月25日(土): 父兄会秋季部会(旗の台)
- 11月28日(火) - 1月16日(火): 歯学部3年生
歯科病院見学実習(全6日間)

D4海外実習（大連医科大学）

歯学部4年 藤田 康平

7月24日－8月4日まで大連医科大学で実習を行ってきました。大連医科大学では歯科医は口腔科医として、歯科病院でも医科病院でも大きな一角を占め、たくさんのユニットを配置して治療を行っていました。口腔科医というだけあり、日本よりも担当する範囲は広く、第一医院の口腔外科では、大きな手術が毎日のように行われていました。また機器はヨーロッパ製や日本製の最新のものが多く、医療の現場においても発展し続ける中国を垣間見ました。

患者数はとても多く、一日に30人くらいの患者さんに対応する口腔科医もいて手際よさや正確さについていくのは大変でしたが、珍しい症例を持つ患者さんの説明を受けるなど、臨床の現場の緊張感に触れる機会もあり貴重な経験をする事が出来ました。中国では、5年制で大学院1年の時に国家試験を受けるそうです。5年生は患者さんを持ち、診療を行います。この5年生や大学院生から説明を受け、手伝いをするなどして現場を見学させていただきました。

私は、学生寮に宿泊しましたが東南アジアや南アジアからの留学生の多さに驚きました。パキスタンやインドからの留学生が多く、2週間という短い実習期間にもかかわらず、多くの人と交流をもつことができました。国や医師と患者の立場は違えども信頼される歯科医師の理想像は変わらず、私にとっての目標ができ、視野を広げるきっかけとなりました。

最後に貴重な経験を得る機会を与えてくださった大連医科大学の先生方、昭和大学の先生方そして、一緒に留学したクラスメートに深く感謝します。



D4海外実習（大連医科大学）

歯学部4年 友利 和歌子

成田空港から飛行機で約3時間、大連周水子国際空港から車で約30分の場所に大連医科大学があります。大連医科大学は、自然環境に恵まれた広大なキャンパスに幅広い分野の学科を含む総合医科大学です。多くの外国人留学生を受け入れており、国際交流が盛んに行なわれています。

今回(7月24日-8月4日)の実習は、大連医科大

学付属歯科病院での臨床見学を中心としたものでした。保存科・口腔外科・補綴科などの治療風景を間近で見学することができました。病院の雰囲気はゆったりとしていて、職員の方々もリラックスしていました。卓球台もあり、休み時間には職員の方々が卓球を楽しんでいました。

様々な科の治療を見学しましたが、日本と中国の治療法や技術はほとんど同じだと感じました。印象に残っているのは、日本と中国での治療に対する考え方の違いです。歯内治療の際には、髄腔穿孔した後は、皮下気腫になる恐れがあるので air は使用してはいけないと習いましたが、中国では air の使用はあたり前だそうです。理由としては、air を使用してもめったに皮下気腫にはならないし、air を使った方が歯科医としては楽だからだそうです。日本では患者が痛がらない治療を優先しますが、中国では患者が痛がっても予後が良ければそちらを優先するそうです。

大連で過ごした2週間は、多くの人々の優しさに支えられ、有意義に過ごすことができました。病院での見学も勉強になりましたが、中国で友人を得ることができたことも大変貴重な経験になったと思います。

D4海外実習（アデレード大学）

歯学部4年 新谷 紘子

7月22日から約2週間にかけて、オーストラリアのアデレード大学で実習とPBLに参加させて頂きました。

最初の1週間は、アデレード大学のカリキュラムをもとに基礎実習、臨床実習、PBLに参加しました。アデレード大学は5年制で、4年から臨床実習が始まり患者さんの治療を行います。そのため、早くからPBLを通して臨床的な力を養っているようです。例えば、口腔内の写真をみて、問題点を抽出し、それを解決するための方法を考えます。生徒は自分の意見を積極的に発言し、先生のフィードバックも多いため、活発な雰囲気で行われていました。歯科医にとって、問題を解決する力や自分の意見を伝える力、相手の話を理解する力は必要です。その点でアデレード大学のPBL中心のカリキュラムは有意義であると思いました。

私は、この留学を通して歯科はもちろん文化に触れることが出来ました。そして今まで普通と思っていた自分の周りの環境を考えるきっかけになりました。



最後になりますが、この留学の機会を与えて下さった先生方に感謝します。

D4海外実習(南カルフォルニア大学:USC)

歯学部4年 間宮 梓

USCはカルフォルニア州の西海岸にある有名私立大学のうちでは最も古く、国際的にも高く評価されている大学です。歯学部では1995年より全課程PBL教育を開始しており、全米で56の歯学部のうちPBLを導入している数少ない大学の1つです。

私はUSC歯学部長の Slavkin 先生と副部長の Sekiguchi 先生にお世話になり、わずか12日間でしたが、とても貴重な体験をしてきました。学生たちのPBLを見学することができなかったのは残念でしたが、研究所や歯科病院を案内していただき



きました。4箇所あるUSCの歯科病院の中の3つは、経済的な理由から歯科治療を受けられない子供たちやホームレスのためのボランティアとして行っており、多くの人々を支えています。このような施設がとても必要とされている現状を知り、貧富の差が激しいアメリカ、という私にとって意外なアメリカの一面に驚きました。同時に、このような施設を必要としない日本の豊かさにありがたく思いました。

この実習を通して、アメリカと日本の国民性や文化、考え方の違いなど、自分なりに理解しいろんな面で感じる事が出来ました。視野がぐんと広がり、今はやりたいことでいっぱいです。お世話になった先生方をすっかりさせないことが、私に出来る恩返しだと思っています。

D6選択実習:充実した実習を体験

歯学部6年 田中 智久

私は6月5日-16日まで千葉県鴨川にある亀田総合病院歯科センターで選択実習を行いました。歯科センターは最新医療設備の整った総合病院の中にあり、口腔外科のみならず一般歯科、小児歯科、矯正歯科があります。訪問歯科診療も行っており、千葉県南部の地域歯科医療の中核を担っています。また、医科と同敷地内にあるため、医科の入院患者さんの往診・治療も行っており、患者中心の包括的医療が実践されています。

実際に病院内で体験した内容は、口腔癌摘出・頸部郭清術の見学、全身麻酔下での多数歯抜歯の見学、外来診療のアシスト・見学などが中心でした。病院外では、訪問歯科診療の一環として、在宅や介護特別養護老人ホームで、寝たきりの高齢者などの歯科治療と口腔内ケアのアシストを行いました。診療終了後は、カンファレンスや講義がありました。歯科センターの先生方のみならず、様々な大学などから講師の先生を招いて、最新の治療や研究についての講

義を行います。治療技術だけでなく、最新の知識も習得することが出来ました。

これから超高齢社会を迎える日本において、全身管理と歯科治療の役割はますます重要になってきていると思います。今回、亀田総合病院でこのような医療を見学し体験できたことは、歯科医師になる私にとって非常に有意義なものとなりました。

このような体験が今回出来たのも、選択実習というシステムが確立されたためです。今後もポリクリだけでは体験することが難しい実習を、選択実習という形で学内、学外で体験できれば、義務化された臨床研修医制度の施設を考慮する際の参考ともなり、理想の歯科医師像形成にも役立つと思います。

最後に、このような実習を実現できるよう尽力してくださった先生方に感謝します。

D1早期体験実習

口腔衛生学教室 村田 尚道

歯学部1年生の早期体験実習は、医療人としての人間関係を築く基本的態度を身につけ、社会の多様な場における歯科保健・医療に対応できる能力を養うことを目的に、10月2-6日まで甲府の8施設(養護学校、知的障害児通園施設、重症心身障害児者病棟、身体障害者療護施設、介護老人福祉施設、リハビリテーション病院)を実習先として実施されました。

本年度より、初日にスモールグループディスカッション(SGD)で実習目的を明確にし、実習毎(3日間)の実習記録と実習



成果を成長報告書として残し、2年生以降もその記録を積み上げていく「ポートフォリオ」の導入を行ないました。初日のSGDでは施設ごとのグループに分かれ、活発な討議が行なわれました。各自がしっかりとした目標を持って実習に臨むことができ、実習後の報告会でも施設利用者の人と深く関わったという学生の感想が多くみられました。

本実習は、歯科薬理、高齢者歯科、小児歯科、口腔衛生が分担して早朝からの引率と指導を担当し、毎日朝7時前に富士吉田を出発し、夕方6時半前に戻るハードなスケジュールでしたが、事故もなく無事終了することができました。また、交通手段の手配やSGDの教室準備など、実習期間を通じて教務課の皆さんの大変な努力と協力によって本実習の目的が達成できたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

D1で学部固有実習の開始

PBL-テュートリアル委員会 委員長 中村 雅典

本年度から保健医療学部を加えた医歯薬保健医療4学部の1年生が富士吉田キャンパスで学習することに伴い、これまでの生物、化学、物理実習の他に各学部主導の実習が開始されることとなりました。

歯学部の実習期間は10月11日から1月17日までの毎週水曜日計12回です。学生を前半と後半に分け、各6回で行います。内容は、現在2年生以降で行っている問題基盤型学習(PBL-テュートリアル)入門を行うことにしました。その目的は、これまでの高校教育まで受けてきた受動的学習の継続ではなく、自己主導型の能動的学習の面白さを早期の段階で体感して貰うことにあります。各6回のコースですが、最初の3回はPBL-テュートリアルについての説明、グループ活動における諸問題(ディスカッション)、本委員会が作ったPBL支援サイトの説明・演習、レポートの書き方等を行い、4回目から基本的に基礎教室の教員にファシリテーターとして参加していただき、PBL-テュートリアルを行います。11月3日には南カリフォルニア大学の Slavkin, Sekiguchi 両先生が見学される予定です。

歯学部学生有志による学園祭模擬店

歯学部4年 山田 智之, 芳賀 秀郷, 堀越 康介

今年は歯学部創設30周年という記念すべき年であることから、私たち学生も何らかの形でお祝いしたいと考え、10月13-15日に行われた大学祭「旗が丘祭」に歯学部学生有志として参加し、模擬店を出店いたしました。

出店に際しては「30周年記念ロゴ入りTシャツ」を作成し、スタッフ一同、Tシャツを着て店頭立ち、同Tシャツを販売して、歯学部創設30周年をPRいたしました。ロゴ入りTシャツは、先生方や歯学部の学生にとっても好評でした。これに加え、模擬店では「串焼き」と「ワッフル」の2店舗を出店いたしました。串焼きはビールを片手に買っていかれるお客さんが多く、ワッフルは大学祭を見学に来た高校生や女性に人気がありました。どちらの模擬店も予想を上回り大盛況でした。この3日間、歯学部学生有志で一丸となって旗が丘祭を盛り上げ、歯学部創設30周年を記念することができ、とても有意義だったと感じております。



模擬店出店という形での大学祭参加は3人とも初めての経験だったため、準備にかなりの時間を要しま

したが、毎日、何人もの先輩、後輩そして同級生が協力してくださり、ようやく出店へとこぎつけることができ、感謝いたしております。

また、今回の私たちの活動をご支援くださいました宮崎歯学部長をはじめ多くの先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

診療統計 (平成18年9月分)

医事課 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,983	707.6	685.4	727.0
入院患者	495	16.5	17.2	12.3

学会賞受賞・表彰・昇任

広報委員長 五十嵐 武

受賞

・内田圭一郎(高齢者歯科学教室)

平成18年9月15-17日に新潟で開催された第36回日本口腔インプラント学会学術大会において、平成17年度日本口腔インプラント学会奨励論文賞を受賞されました。

論文名:「インプラントオーバーデンチャーの治療効果-チェアサイドにおけるマッチングテスト」



表彰

・井上 伸(総合内科)

第21回日本不整脈学会と第23回日本心電学会合同学術集会の両学会で不整脈病理に関する標本展示を行い、感謝状を授与されました。

昇任

・山田 篤(口腔生化学教室)

平成18年10月1日付 : 講師に昇任

編集後記

広報委員(口腔生化学教室) 山田 篤

昭和大学歯学部創設30周年記念式典が間近に迫っております。この30年の間に本学部が培ってきた伝統を大切に守り、今後さらに発展・飛躍のために邁進しなければいけないと、改めて身が引き締まる思いでいっぱいです。

最後になりましたが、初めての経験で不慣れな私に、大変丁寧にご指導して下さいました五十嵐 武広報委員長をはじめ、大変お忙しい中、原稿をご執筆して下さいました先生、生徒の皆様から感謝の意を申し上げます。